1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570101943		
法人名	社会福祉法人 下関市社会福祉協議会		
事業所名	下関市社協 グループホームしまど		
所在地	山口県下関市豊北町大字神田4611-2		
自己評価作成日	令和2年8月10日	評価結果市町受理日	令和2年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
聞き取り調査実施日	令和2年9月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の草花に囲まれた静かなのんびりとした環境の中で、入居者さん9名と猫の「タマちゃん」が共に生活しています。自宅での生活と変わらない日常生活が送れるよう、ご自分のペースで自由に生活できるよう、職員は一方的な関係にならないようにさりげない支援を心掛けています。現在はコロナ禍で中止していますが、月1回の「タマちゃん喫茶」では地域の方々がいつも楽しみにしてお見えになります。また「お泊りボランティア」は、本当にありがたい存在で夜勤をする職員の強い味方です。運営推進委員さんを中心に地域の方々のたくさんのご協力に支えられています。いつも笑い声が絶えない、にぎやかなグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝のミーティング時に理念を唱えられて、職員間で共有しておられるとともに、全職員で話し合わせ、利用者一人ひとりの思いに寄り添ってその人らしさを大切にしようという共通認識のもとに、職員一丸となって理念に沿ったケアに取り組んでおられます。コロナ禍で買物等の外出が制限されるなか、福祉バスを借りて利用者全員で、人のいない近くの神社へミニドライブに出かけられる他、ウッドデッキに2脚のベンチを置かれ、そこでの外気浴や食事、ティータイムの機会を増やされて、利用者の気分転換や季節を感じられるような工夫をしておられます。管理者は、利用者の身体状況の急変や事故発生時に備えて、月1回内部研修で、救急時の対応として、食べ物をのどに詰まらせたとき、緊急搬送、止血、火傷、骨折、熱中症、等について、全職員で学ばれ確認し合っておられるなど、職員を育てる取り組みをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働いている (参考項目:12. 13)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝のミーティング時に理念を唱和し、その理念に沿ったケアを心がけている。実践する中で迷った時には、理念に照らして考えるようにしている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり事業所内に掲示している。事業所だよりに記載している他、毎朝のミーティング時に理念を唱和して職員間で共有している。全職員で話し合い、利用者一人ひとりのその人らしさを大切にしてケアをしようと申し合わせ理念の再認識をしている。ケア会議や日常のケアの場面でも常に理念に沿っているかを確認して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域版のホーム便りを年に4回発行し、回覧している。地域の作業や祭りにも積極的に参加し、地域とのつながりを深めている。	自治会に加入し、職員は年5回の地域の清掃活動に参加している。利用者と職員と一緒に、地域の文化祭に出かけている。事業所だよりに年4回発行し、地元の二つの自治会に配布し、回覧してもらっている。事業所主催の秋まつり(R1,10月)は地域の人が参加し、演芸、日舞、カラオケ、銭太鼓などで交流している。屋台の設営には地域のボランティアの協力を得ている。月1回のタマちゃん喫茶は、12月からインフルエンザやコロナウイルス感染拡大防止のため中断しているが、開設時は地域の高齢者や民生委員が来訪して交流している。ボランティア(草取り、お泊り、生け花)の来訪がある他、近所の人から花や地元ウニ組合からの瓶詰ウニの差し入れがあったり、近隣の散歩や買物時、郵便局に行くときは地域のひとと気軽に挨拶を交わしているなど、事業所は地域の一員として日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や事業所主催の秋祭り、月1回の喫茶、お泊りボランティア等で、入居者さんと一緒に過ごしていただくことで理解を深めていただいている。(現在は、コロナ禍のため実施できていない。)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員が自己評価に取り組み、内部研修でその意義を確認し理解するよう努めている。また、評価結果をふまえた改善に取り組んでいる。	管理者は、評価の意義について職員に説明し、自己評価をするための書類を配布して、全職員が記入したものをまとめている。職員は、評価を日々のケアを振り返り、見直す機会と捉えている。外部評価の結果をうけて、月1回の内部研修時に、緊急時の対応について毎回職員間で確認しあっている。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の現況、ヒヤリハット、事故報告書の報告等をして話し合い、サービスの向上に活かしている。「タマちゃん喫茶」へ地域の方の参加が増えた。(コロナ前)	会議は年6回開催の予定だったが、コロナ禍で3回は資料を送付し、意見照会をしている。利用者の現況、事故報告・ヒヤリハット報告、身体拘束適正化委員会について、秋まつりについて等を議題とし、意見交換をしている。話し合いの中から利用者の安心安全のために、ウッドデッキやスロープの修繕をしているなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の参加だけでなく、随時、連絡・相談、情報交換をし、協力関係を築くよう取り組んでいる。	市担当者とは、運営推進会議やケア会議時、電話で情報交換したり、介護保険更新時には直接出向いて市のサービスなどについて相談し助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議やケア会議時に事例の相談や情報交換をして、連携を図っている	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみを原則とし、身体拘束をしないケアをする為内部研修で学び、ケア会議で話し合っている。また「身体拘束等の適正化のための指針」を制定し、職員全員で取り組んでいる。GH内、居室内を自由に行動できるよう転倒防止を考慮しながら、ベッドやダンス、椅子やソファを配置している。	「身体拘束等の適正化のための指針」に基づいて、身体拘束適正化検討委員会を年4回開催している。職員は内部研修で学び、拘束をしないケアに取り組んでいる。昼間玄関は施錠せず、外出したい利用者には、職員と一緒に出かけ気分転換の工夫している。スピーチロックについては、管理者が注意したり、職員間でも話し合っている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修や外部での研修で学ぶ機会を持ち、職員同士がお互いに意識し合い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業、成年後見制度について内部研修で学び、職員全員が理解に努めている。以前はおられたが、現在は利用されている方はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定の際には、家族に十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りに努めていて、家族会や面会時、また電話等で意見や要望を聴くようにしている。意見や要望等については、ケア会議等で話し合っている。苦情の受付や処理手続きは、速やかに行われるよう体制を整えている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に利用者と家族に説明している。面会時、運営推進会議時、家族会(例年3回だがコロナ禍で1回開催)、行事参加時、電話での報告時に家族からの意見や要望を聞いている。年4回、利用者の写真等を添えて事業所だよりを発行し、家族が意見を言いやすいように工夫している。家族会終了後に草取りをするという意見が出され、話し合い後に実行しているなど、運営に反映している。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケア会議やミーティング時、日常業務の中でも職員の意見や提案は聞くようにしている。法人で年一回、自己申告書を記入する機会があるが、それが反映されていない所がある。	管理者は、月1回のケア会議時、毎朝のミーティング時、日常業務の中で随時、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。業務担当(行事、物品管理など)を決めて意見や提案が言えるような雰囲気づくりに心がけている。夜勤帯に行ってきた事業所内の掃除を、日中にしたらどうかという提案があり、掃除の時間帯を変えて利用者と一緒に実施しているなど、意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件の整備が少しずつだが改善しつつあるが、まだ整っていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、勤務の一環として交代で参加している。研修後には、内容を報告し職員全員が共有できるようにしている。内部研修は月一回行い、なるべく全職員が参加できるようにしている。	外部研修は、職員に情報を伝え、経験や段階に応じて業務の一環として参加の機会を提供している。4回参加し、ほぼ全員の職員が受講している。受講後は「研修復命書」に記録して回覧し ケア会議時に報告して共有し、その後いつでも閲覧できるようにしている。法人研修は、地区社協主催の徘徊者捜索声かけ模擬訓練に参加している。内部研修は、月1回、職員を講師として、緊急時の対応(食べ物をのどに詰まらせたとき、緊急搬送、止血、火傷、骨折、熱中症、等)、薬について、認知症の理解、プライバシー確保と人権尊重、身体拘束、権利擁護、接遇・マナー、口腔ケア、事務分掌、食中毒と感染症などのテーマで実施している。新任研修は、法人研修の後に現場の業務の中で管理者や先輩職員が指導し、働きながら学べるように支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会の研修や地域ケア連絡会議、町内の徘徊模擬訓練等に参加し、同業者と交流する機会を持つようにしている。また、他施設を視察させていただきサービスの質を向上させる努力をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に見学に来てもらったり、入居前面談を必ず行うようにしている。その時に、要望や思いを確認し、安心して生活を送れるよう信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、GHに見学に来られた時や入居前面談等で、要望や不安なこと等しっかり確認して、信頼関係づくりに努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する段階で、本人や家族とよく話し合い、必要に応じて他のサービスの利用や調整を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士として、喜怒哀楽を共有し、食事作りや野菜作り等を教わりながら、お互いに助け合い支え合って生活をしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会だけではなく、その他の行事も家族に案内し参加していただき、一緒に時間を過ごしていただくことで、共に本人を支えていくという関係づくりをするよう努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親せき、友人、知人の面会、法事やお墓参り、お寺参り等、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご家族のご協力をいただきながら支援に努めている。	家族の面会や親せきの人、近所の知人、友人の来訪がある他、電話の取次ぎや年賀状での交流を支援している。地元商店での買物や郵便物の投函、寺参りの他、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、親族の通夜、葬儀への出席など、本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、入居者同士の関係を把握し、居間での座席等の工夫をしている。また入居者同士がわからないことを教え合ったり、できない事を助け合ったりして支え合える関係づくりを心掛けている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても御家族とお会いする機会があれば、近況を伺ったり、必要に応じては相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を利用し、アセスメントをしている。日々の関わりの中で本人の言葉や行動で気づいたことをケース記録や業務日誌に記録し、把握するよう努めている。困難な場合は、職員で話し合い本人本位に検討している。	入居時に「基本情報シート」を活用してアセスメントし、日々の関わりの中での利用者の言動や表情を「介護記録」の「私の願いや支援してほしいこと」欄に、利用者のことばと職員の対応を一見してわかるよう印をつけて工夫をして記録している。職員は、入浴時や草取り時にそばにさりげなく寄り添って話しやすい雰囲気づくりをするなど、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族から情報を得て職員間で話し合っ、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴等は家族から聞き取りをしたり、家族にセンター方式の様式に記入してもらっている。またGH入居前に利用していたサービス事業所にも問い合わせ、なるべくこれまでの生活環境と変わらない対応ができるよう努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子をしっかりと観察し変化に気づくよう努めるとともに、ケース記録やバイタル、排泄チェック表などでも心身の状態の把握に努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族、主治医の意見や意向を反映し、本人がより良く暮らせるよう職員全員で話し合い、本人の現状に即した介護計画を作成している。毎月モニタリングを行い、3か月に1回計画を見直している。	計画作成担当者を中心に、月1回ケアカンファレンスを開催し、家族の要望や主治医の意見を参考にして職員全員で話し合っ、介護計画を作成している。月1回モニタリングを実施し、3か月ごとに計画を見直している他、利用者の状況の変化に応じて見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人ひとりのケース記録に日々の様子や気づきを記入し、ミーティング時やケア会議時に情報の共有をしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応でき、柔軟な支援に努められるよう職員配置等の工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の女性部主催の「木目込み教室」に参加したり、地域のボランティアの方々との交流を持つなど、暮らしを楽しむことができるよう支援している。ただ現在は新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実践ができていない。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を聞いて、かかりつけ医は決めている。かかりつけ医とは相談や報告を密にし、適切な医療を受けられるように支援している。	以前からの医療機関をかかりつけ医にしている場合は、月1回の訪問診療がある。協力医療機関をかかりつけ医としている場合は、月2回の訪問診療があるが、コロナ禍で、4月からは月1回となっている。他科受診は家族の協力を得て支援している。歯科は必要に応じて往診がある。受診結果は家族には電話や面会時に伝えている。職員間は「医療記録表」に記録している。夜間や緊急時には、直接かかりつけ医に連絡し指示を仰いで適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は不在だが、かかりつけ医にこまめに相談、報告をして指示を仰ぐようにしている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、医療機関との連絡を密に行い、入居者が安心して治療やサービスがスムーズに受けられるよう支援している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会で事業所の方針は何度も伝えている。重度化した場合には家族や主治医等と話し合い、事業所のできることを十分に説明して方針を共有するよう努めている。	契約時に、事業所のできる対応について家族に伝えている他、家族会でも事業所の方針を説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から家族の意向を聞き、主治医と相談して、医療機関や他施設への移設を含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日々の関わりの中での気づきをヒヤリハット報告書に記録し対策を検討し、職員全員で事故防止に取り組んでいる。日頃も小さな変化を見逃さないよう心掛けている。初期対応の確認や訓練は定期的に行い、徐々にだが実践力が身につけてきたように感じている。	事例が発生した場合には、その場の職員が発生状況や対応、今後の対応を「ヒヤリハット報告書」または「事故報告書」に記録している。朝のミーティングで報告し、全職員に回覧している。月1回のケア会議で話し合いをし、利用者一人ひとりの事故防止につなげている。職員は内部研修で、食べ物をのどに詰まらせたとき、緊急搬送、止血、火傷、骨折、熱中症、食中毒、感染症等の緊急時の対応について学んでいる。	・全職員での応急手当や初期対応の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害の想定を変えながら、避難訓練を行い避難できる方法を考えている。運営推進委員の参加を得ての合同避難訓練や緊急連絡網等で地域との協力体制の強化を図っている。	年1回、夜間火災を想定した通報、避難誘導、消火訓練を実施している他、年2回、裏山のがけ崩れを想定した土砂災害避難誘導訓練を利用者も参加して実施している。緊急時連絡網に運営推進会議の地域メンバーやお泊りボランティアメンバーが入っており、事業所は地域との協力体制の構築に取り組んでいる。災害に備えて水や食料の適当な備蓄がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	内部研修等で学習を重ね、一人ひとりの人格を尊重しプライバシーを損ねないよう、その人の生活歴をふまえながらその人に合った言葉かけや対応を考えながら行っている。また、ケア会議でも誇りやプライバシーの確保ができていくか確認し合っている。	職員は、内部研修で「プライバシー確保や人格の尊重」「接遇・マナー」について学び、正しく理解している。利用者一人ひとりに対して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な対応があれば、管理者が注意し、職員間でも話し合っている。個人情報守秘義務は徹底し、記録の取り扱いに気をつけている。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の思いや希望を気軽に出来る雰囲気作りや自己決定できるように、職員は入居者さん一人ひとりに合わせて声かけ等工夫しながら対応している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや思いを大切にしながら、その人その人がご自分のペースで自由に生活が送れるよう支援している。(例えば、食事時間、入浴、散歩等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や髪の毛のセット、染髪等、本人の希望に沿ってその人らしい好みのおしゃれができるよう支援に努めている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者さんに食べたいものや好きな物を聞いたり、その人その人ができること(野菜の収穫、皮むき、食事作り、食器洗い、食器やお盆を拭く等)をしていただき、食事を楽しむことができるよう支援している。季節の料理を出すことを心掛けている。	週5日の昼食は、外部委託業者の配食を利用し、そのほかは、事業所の畑で収穫した野菜(カボチャ、キュウリ、オクラ、ミニトマト)など、旬の食材を使って事業所でつくっている。きざみ食など利用者一人ひとりに合った形状にして提供している。利用者は職員と一緒に、買物、食事づくり(皮むき、煮炊き、味付)テーブル拭き、お盆拭き、下膳、食器洗い、茶わん拭き、等できることをしている。おやつづくり(芋饅頭、いぎのは団子など)や行事食(おせち、花見弁当、恵方巻、ウニご飯など)、すき焼きパーティ、秋まつりでの屋台の焼きそばや焼き鳥など、誕生日のケーキや寿司、道の駅での外食、ウッドデッキや中庭でのお茶や食事など、食事を楽しむことができる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に記録し確認しながら、1日に適切な量が摂取できるよう支援している。一人ひとりの状態や好みに合わせて、刻み食やトロミ剤を使用したり、提供する食器を変更したり工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	なるべく毎食後の口腔ケアを心がけているが、朝昼はできていないことがある。夕食後は必ず行い、義歯は預かり消毒をしている。口腔内の観察にも気をつけ、清潔保持に努めるようにしている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、一人ひとりの排泄パターンを把握しサインを見逃さず、声かけや誘導をトイレでの排泄支援をしている。また、夜間のみポータブルトイレを利用されている方もおられる。	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、プライバシーに配慮しながら、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材や麦、牛乳、ヨーグルト等を摂るようにしている。また水分摂取量にも注意し、スムーズな排便に繋がるように気を付けている。日々の生活の中で、散歩や軽い運動、体操ができる時間を持つように心掛けている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	基本は毎日午後からだだが、一人ひとりの体調を考慮し希望やタイミングに合わせて、個々に応じた柔軟な対応ができるよう心掛けている。また、入浴剤やゆず湯等で入浴が楽しめる支援をしている。	入浴は毎日、13時30分から15時30分までとしているが、利用者が希望すればいつでも入浴できるようにしている。好みの湯加減にして、入浴剤を使って気分転換したり、ゆず湯にして季節の楽しみを取り入れている。利用者の状態に合わせて足浴、清拭、シャワー浴の支援をしている。入浴したくない人には、無理強いせず、時間をずらしたり、職員を替えたり、言葉かけの工夫をして、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの身体状況やその方のリズムに合わせて、休息支援をしている。寝具の衛生面や空調管理にも配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬表で確認し、薬の目的や用法、用量について職員が把握している。追加薬があれば、業務日誌に綴って全員が共有できるようにしている。症状の変化等があればミーティング時に確認し、主治医に報告して指示を仰ぐようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り、片付け、掃除、散歩、パズル、ぬり絵、新聞を読む、歌、畑仕事、ドライブ等気分転換できるよう、また役割が持てるよう、その人の生活歴や好みに合わせて支援している。	畑を耕す、植え付け、草とり、水やり、収穫、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物の収納、モップかけ、拭き掃除、掃き掃除、掃除機を使う、裁縫(のれん、雑巾、三角巾)、ウエスづくり、花活け、ゴミ捨て、新聞をたたむ、歌を歌う、風船バレー、切り絵、貼り絵、ぬり絵、ジグソーパズル、カルタ、テレビやDVD視聴、雑誌や新聞広告を見る、買物、食事づくり、おやつづくり、季節の行事、誕生日会、ボランティアとのふれあい、タマちゃん喫茶での交流、お楽しみ忘年会、10月の秋まつりでの屋台や演芸、日舞、カラオケ、銭太鼓など、利用者一人ひとりが活躍できる場面を多く作り、楽しみごとや気分転換の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や近所のスーパーでの買い物、ドライブ等で希望に沿うよう対応している。また、家族の協力を得て、梨狩り、外食、お寺参りや法事等にも出かけられるよう支援している。ただ、最近は新型コロナ禍のため、実施できないことが多い。	初詣、花見(桜、菖蒲、アジサイ)、梨狩り、ドライブ(角島、道の駅、神社など)、近隣の散歩や地元商店での買物、郵便物の投函、寺参りの他、家族の協力を得ての外出、一時帰宅、親族の通夜、葬儀への出席など、本人の希望を把握し戸外に出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	GHでの預り金の中から家族に了解を得て、希望に応じて買い物が自由にできるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使用できるようにしている。手紙のやり取りとまではいかないが、親戚の方にはがきを書く等の支援をしている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のある飾りつけをし、今の季節を感じることができるようにしている。日差しが強い時には、よしずを用いる等して、室温や換気にも気を付けながら居心地良く過ごせるよう工夫している。またウッドデッキでは、日向ぼっこができるようベンチを置くなどの工夫をしている。	リビングの大きな窓から裏山の木々が見えて、自然が眺められる安らぎの空間となっている。玄関や室内に活けた季節の花や観葉植物で季節を感じることができる。ウッドデッキには2脚のベンチを置き、外気浴や食事、ティータイムを利用者と職員が一緒に楽しむ場所となっている。廊下や室内の壁には、行事の写真や利用者の作品を貼っており、懐かしい歌の歌詞を大きく書いて貼り、いつでもみんなで口ずさむことができるようにしている。リビングの一角に畳のコーナーを設け、利用者がくつろいだり、洗濯物をたたむ場所になっている。玄関には長椅子を、廊下にはソファや椅子、作り付けの畳椅子を置き、利用者はそこで思い思いにいつでもくつろげるようにしている。温度、湿度、換気、など適正に調整しており、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	GH内の所々にソファや椅子を配置し、独りになれたり、気の合う入居者同士で過ごせるよう工夫している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しながら、馴染みの物、仏壇等を持ち込んでいただいたり、写真やぬり絵を飾るなどして、本人が居心地良く落ち着いて過ごせるようにしている。居室内を本人の思いで動けるよう一人ひとりの身体状況に合わせ、居室内の配置を工夫している。	机、イス、ソファ、テレビ、仏壇、衣装ケース、時計、タンスなど、馴染みのものや好みのものを持ち込み、壁には自分の塗り絵作品やカレンダー、家族写真を飾って、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	GH内の壁や戸に、場所や矢印を書いて貼ったり、居室入口に本人の名前や顔写真を貼る、また本人製作の暖簾をかけるなどの工夫をし、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 下関市社協グループホームしまど

作成日: 令和 2 年 12 月 14 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	消防署の協力を得て、救命救急法の講習を実施しているが、すべての職員が実践力を身につけているとはいえない。	全職員が自信を持ち緊急時に的確な判断や対応ができるようにしたい。	①応急手当や初期対応の確認を定期的に行い、訓練を継続する ②常にシュミレーションをする癖付けをする	1年
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。